

高校のお勉強

CMEO 事業部 田村 一雄

「高校で勉強したことは何にも役に立たなかった」という話をよく聞くが、私は高校のときにもっと勉強しておけばよかったと今更ながらに思っている。さらに、大学でも遊んでばかりいないでちゃんと通っていればよかったとも思い始めている。高校での勉強が後の人生で役に立つかどうかは、その人の職業や趣味にもよるのだろうが、我々の職種は広い意味でのコミュニケーションスキルに加え、特に私の担当する分野が Chemicals, Materials, Electronics, Optics なので化学、物理が理解できている方がいいし、物理をより理解するためには数学も知っておきたい。もちろん、グローバルの時代には外国語も必要である。

そうしたことから高校レベルの化学と物理を勉強しようと思い始めたのは 36 ~37 歳頃だったろうか。化学関連のレポートを作成する場合は、例えば分子量、オリゴマー、カルボキシル基、ケン化、不斉合成反応…などの^{※1} 用語とその意味を理解する必要があったし、ディスプレイ関連では光や波のなんたるかを勉強する必要があった。電子部品関連でも電子や抵抗のなんたるか、材料特性を知るために元素周期表とその意味やイオン化傾向なども復習する必要があった。講談社のブルーバックスとか高校の参考書なども買ってみた。あるときからは NHK 教育 TV の「高校化学講座」「高校物理講座」を録画して休日などにみてメモをとったりするようになった。

ではこうした方法で化学や物理が身につき仕事で役立っているかというと、役立っているとも言えるし、そうでもないなあ、とも言える。この程度の勉強では、やはりプロとして研究開発の最前線にいる立場の方と技術の話で同等に渡り合えるわけではない。ただ、やって無駄だったとは思っていない。化学と物理を勉強し電池の基本がわかったことで、市場的にみて現在最も旬なリチウムイオン電池のことなどは比較的スムーズに理解できる。デオキシリボ核酸 (DNA) とかドコサヘキサエン酸 (DHA) な～んて化学用語をさりげなく挿入しながら会話するとなんか自分がかしこくなった気がしてよい。

数学は、やはり NHK「高校数学講座」をこの4月から録画を始めた。また、「もう一度高校数学」（日本実業出版社）という本も買ってみた（現在のところ「買ってみた」というだけの段階）。これから学んでいこうと思う。

ビジネスマンにとって外国語を操れることがアドバンテージであることはここに語るまでもない。海外でちょっとした英語でのコミュニケーションすらとれないと、相手にナメられているであろうことは薄々気付いてもいた。にもかかわらず、私はそれに真剣に相対してこなかった。というか、逃げてきたと言った方が正しい。へたな外国語を覚えるよりもレベルの高い取材をし、通訳さんに正確な情報を伝えてもらうべきだと考えていた（今もそう考えている）。したがって、外国語の習得を部下に勧めることはしなかった。

しかし、ここまで市場がグローバル化してくると、特に英語は避けられない。具体的かつ数字的な根拠はないのだが、英語と中国語を話せれば、たぶん世界の1/3以上の人間とコミュニケーションできるのではないか。このため、私は立場的に部下に対して英語や中国語の勉強をするようにと会議の席で言ってしまったのである。※2

言ってしまった以上、私も何かをせねばならない。私は何をすべきか考えた。英会話教室に通うことも真剣に考えた。しかし、私が第一に選択したのは我が愛器 NINTENDO DSi 用の英語教材ソフト「英語が苦手な大人の DS トレーニング もっとえいご漬け」を購入することであった。「英語が苦手な大人の」とは言ってくれるではないか。そのソフトで初級から始めている。DS が英単語をつぶやく。それに対して私は DS の抵抗膜式タッチパネル画面に POM（ポリアセタール）製のペンで綴りを入力する。正解すると次に進み、間違えると再度同じ問題が繰り返される。

ところで、中学時代、私はほとんどの科目ができた。板橋区の学校だったので、中学でできたからといってもたかがしれているのだが、勉強した分だけ吸収できたり、勉強が楽しくもあった。それが高校に入るといろいろ刺激的なことを覚え勉強に身が入らなくなってしまい、それでも私立の付属校だったのでなんとか大学には進学することができた。英語の成績は、中学時代3年間を通しての5段階の5であった。Beatles を始め欧米の音楽に興味を持っていたこともあり、英語は

熱心に勉強したのである。高校時代も他の教科に比べてはるかによい成績であった。

こうした下地があってか、DS の初級程度の問題ならば軽いもんである。「Beautiful」なんて綴りも一発で正解だ。しかし、例えば *pardon* といった単純な単語は学習した記憶がない。「HORIZON」には載っていなかったのではないか。

DS での英語のお勉強が私の英語能力を向上させているのかどうかやや疑問ではある。でも向上しているのだろうと前向きにとらえ、今後も続けていきたいと考えている。

英語のお勉強の第 2 弾として (DS と並行して) 始めたのがやはり NHK の活用だ。^{※3}PM11:00～11:30 にやる番組である。「リトル・チャロ 2」とかそういうやつである。リアルタイムでみることはなかなかできないので、録画して週末や休日にみている。このほか日本文化を英語で紹介するものや英語による海外ニュースをネタにしている番組などがあるのだが、字幕もすでに早口で（普通に？）語られるとお手上げである。英語字幕が出てやっと理解できる部分が増えてくる。長い単語や知らない単語が出てくるとついていけない。ボキャブラリーの圧倒的な不足も致命的だ。

これらの勉強で効果が現れる日が来るのだろうか。私が考える効果とはビジネス場面において *without* 通訳でバンバン英語でやりあうこと。その日が来ることはないであろう。万一あったとしてもその頃には私は引退しているだろう。「そんなことをしていても永遠にヒアリングもコミュニケーションもできるはずがない」と否定的な見方をする人もいよう。だけどまあ、好きにやらせて欲しい。私の会社人生はあと 10 年程度。だから私の望むところはそんなに高いとこに置いていない。望むところは何か？へへへ・・・カラオケで Beatles の英語の発音について「気持ちちはわかる」などと言われない程度に歌えるようになること、それを^{※4}P 店で。

なんか、数号前のこのコラムと同じような閉めになってしまったなあ。

[筆者注]

- ※1 高校化学ではこれらの用語は出てこないと思われる。
- ※2 CMEO 事業部には英語、韓国語、中国語などを操れるスタッフが既に存在します。部下の名誉まで。
- ※3 3月まで「英語がわかる 100 のツボ」の優木まおみちゃんが楽しみであった
- ※4 P 店とは筆者の造語でフィリピンパブ、フィリピンスナック、フィリピンクラブの総称。Yano E plus 2010 年 4 月号の本コラムにおいて「P ! P ! P ! ! !」というタイトルで掲載され、一部（内輪？）で大反響を呼んだ。バックナンバー要 Check !

執筆者略歴：田村一雄

1989 年、(株)矢野経済研究所に入社。以来、化学・素材分野の調査研究に従事し、現在はデバイス領域まで調査領域を拡げ、CM&EO 事業部の事業部長としてエレクトロニクス分野の川上から川下領域を統括。知的クラスターへのコンサルティング実績を有するほか、台北事務所所長、ソウル支社長を兼務。